

「コンビニの街」上海

日本の街を歩くと、自動販売機とコンビニをよく見かけると思います。上海の中心部を歩くと、自動販売機は見かけませんが、コンビニは日本と同じくらいよく見かけます。夏の暑い時など、冷たい飲み物を買いたいと思っても、日本のように自動販売機が無いので、どこかのお店に入って買うことになります。上海中心部にはコンビニがあちこちにあり、ちょっと買い物をしたいときにはとても便利です。

上海には4,000店を超えるコンビニがあるそうです。中国現地系のコンビニの方が店舗数は多いですが、日系のコンビニも数多くあります。日系のコンビニで一番店舗数が多いのはファミリーマート（中国語で「全家」）だそうです。上海だけでも400店を超える店舗があり、道を歩いてもよく見かけますが、印象が強いのは地下鉄の駅改札付近の店舗です。比較的大きな駅であれば簡易型の店舗が設置されています。感覚としては、日本の駅構内のコンビニとあまり変わりません。

日系のコンビニはファミリーマート以外にも、ローソン（羅森）とセブンイレブン（7ELEVEN）があります。上海に進出した順番はローソン（1996年）、ファミリーマート（2004年）、セブンイレブン（2009年）の順ですが、店舗数はファミリーマート、ローソン、セブンイレブンの順です。先ほどファミリーマートの店舗数に触れましたが、ファミリーマートは中国国内の店舗数を2015年までに4,500店に、2020年までに8,000店にする計画だそうです。この8,000店という数字は日本国内の店舗数とほぼ同じで、十数年でこれだけの店舗数を見込めるというのはすごいことかも知れません。

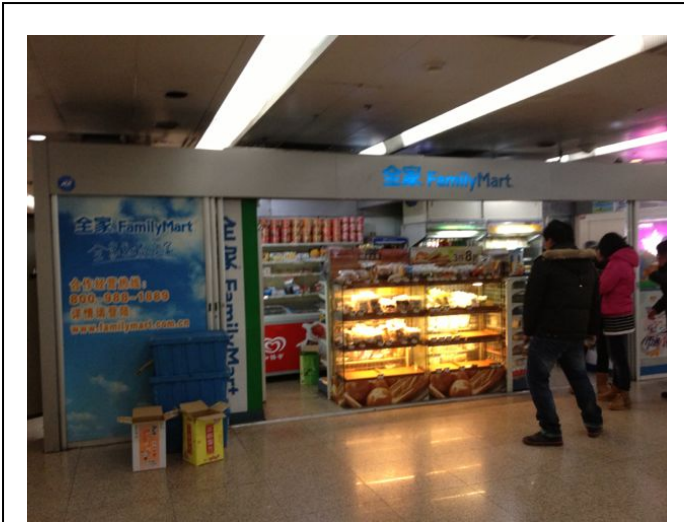
上海のコンビニの品揃えは、基本的には日本とあまり変わりありません。弁当やパン、お菓子などの食べ物、水やお茶、お酒などの飲み物、その他簡単な日用雑貨などを買うことができます。レジ付近でおでんやホットスナックを売っている店舗もあり、購入したものを店内の座席で食べている光景も見られます。

値段については日本と比べて若干安いと思います。パンは5元前後（1元：約14円）、お弁当は10元前後で売っています。日系のコンビニではおにぎりや巻きずしのようなもの（ご飯は酢飯ではない）も売っていて、おにぎりは3元前後、巻きずしのようなものも5元程度で売っています。飲み物も牛乳やジュース、お茶、スポーツドリンク、お酒ならビール、ワインや中国のお酒などが売られています。基本的に、中国国内で生産しているものは安く、輸入しているものは高くなっています。

上海のコンビニと日本のコンビニで異なる点もあります。それは、ビニールの買い物袋が有料であるということです。上海市では原則ビニールの買い物袋は有料で、コンビニだけではなくスーパーやショッピングモール内の店舗などでも同様です。レジでの会計の際に「袋いりますか？（你需要袋子吗？）」と聞かれます。袋の大きさによって、0.1～0.3元程度の料金がかかります。私も必要なときにはビニール袋を買いますが、基本的にはマイバッグを持ち歩くようになりました。

私が今住んでいるところの近所にも、コンビニが4軒あり、うち3軒は日系のコンビニです（ファミリーマート、ローソン、セブンイレブンが1軒ずつあります）。日系のコンビニの商品棚には、日本製の商品がそのまま置いてあることもあります。たまに食べたくなって買うことがありますが、値段は高めです。たとえば、ポテトチップが25元程度、カップうどんが28元程度で売られています。何気なく買い物かごに入れて、レジでの会計の際に、合計金額にビックリすることもあります。

ちなみに、上海のファミリーマートに入ると、日本と同じ入店のメロディが流れます。その後に聞こえてくるのは「いらっしゃいませ」ではなく「欢迎光临」（「いらっしゃいませ」の中国語）ですが、あのメロディを聞くと、なぜだかちょっと嬉しくなります。この感覚は自分でも面白いと思うのですが、日本を感じられる瞬間だからなのかも知れません。



地下鉄駅改札付近にあるファミリーマート



地下鉄駅構内にあるセブンイレブン



中国現地系コンビニの1つ「快客」



セブンイレブンで買った三文魚（鮭）のおにぎり



セブンイレブンで買ったチョコレート虎皮卷（チョコレートロール？）